

## 原子力リスク研究センター (NRRC) 第 13 回 原子力経営責任者会議 議事録

1. 日 時：2019 年 11 月 7 日 (木) 10:00～12:30

2. 場 所：電力中央研究所 (大手町本部) 役員大会議室

3. 出席者：

主査：アポストラキス (NRRC)

委員：阪井 (北海道電力)、小保内 (東北電力；増子代理)、牧野 (東京電力 HD)、倉田 (中部電力)、米原 (北陸電力；石黒代理)、松村 (関西電力)、岩崎 (中国電力)、山田 (四国電力)、豊嶋 (九州電力)、剣田 (日本原電)、武井 (日本原燃)、浦島 (電源開発)、横尾 (NRRC)

オブザーバー：水田 (関西電力)、渥美 (電事連)、中野 (原安進)、門上 (ATENA)、メザープ (NRRC)

NRRC 幹部：高橋、白井、梅木、稲田、山本、朝岡

幹事：岡本 (NRRC)

4. 議 題：

### (1) 2018 年度 NRRC の研究成果について

NRRC より、2020 年度研究計画について説明した。

### (2) NRRC 活動状況

NRRC より、「原子力リスク研究センターの活動概要」について報告した。

(委員からの主なご意見)

- ・リスク情報の活用、RIDM における、一つの目標は、2020 年の ROP、新検査制度の導入をターゲットにし、業界としてベースをしっかりと作っていく。それを ROP が始まるタイミングで外に対して打っていく。そのための方法として、ここまでしっかりと作ってきたことと、これから先も、しっかりとバージョンアップ・レベルアップをしていく。自然現象等も含めて、業界でしっかりとやっていく。実務において、ROP の中で SDP をやっていくと、定量的目標を使って判断していかなくてはいけない。だから、そういう定量的な目標の素地を作っていく。ということと理解する。

(所長の主な発言)

- ・PRA は、基本的に専門家の判断によるところが多いのは事実だと思う。(規制に受け入れられるための) 最終的な基準は、独立したピアレビューを行うこと。実際に実験をやって PRA を検証する訳にはいかないの、細部まで理解をしている専門家の意見を取り入れ、その人たちが良し、と言え、受け入れられるものである。
- ・全てのリスク情報を活用したイニシアチブ、プログラムが CDF を減じることにつながるかというと、そうではない。その多くは CDF を上げることになる。だから、

規制当局は、どれぐらい増えても許容可能かを決定する必要がある。そこで、我々は、大きいというのほどのぐらいの大きさか、低いというのどれぐらいかを考えなければいけない。つまり、安全目標、セーフティゴールがないと、そういう決定ができないということになる。

以 上